

古写真をたずねて



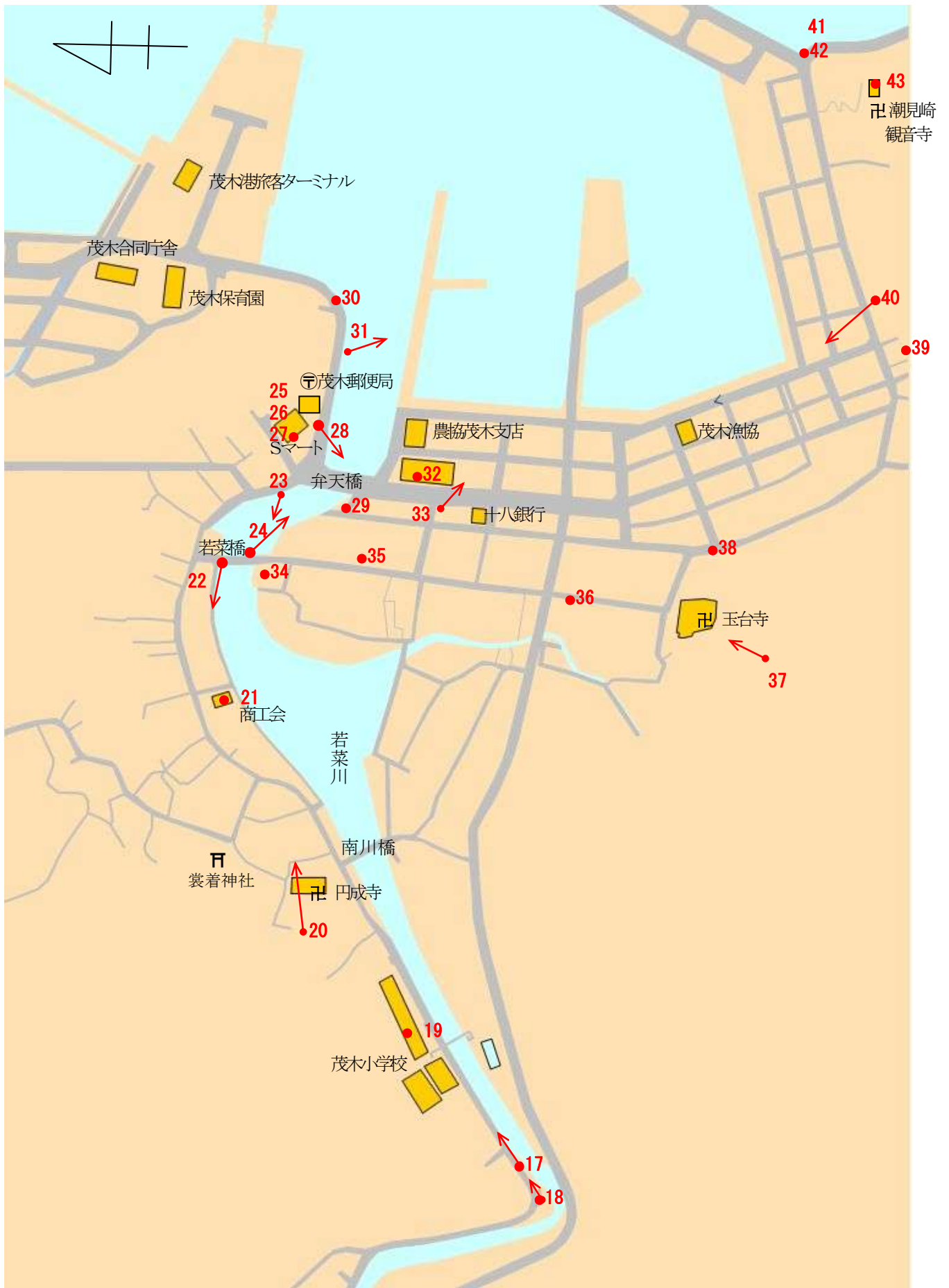
茂木の海岸の絵葉書写真

長崎市歴史文化博物館所蔵

まだ、写真が少なかった時代、茂木は交通の要所であるとともに長崎近郊の観光地であったため、多くの外国人が訪れていた。このため、写真や絵葉書が残っている。

昭和期の写真を含め、茂木の遷り変わりを写真や絵画から知るとともに、現在と比較したものである。

全体図(茂木街道).....	45	31 海岸(3).....	79
茂木拡大図.....	46	32 枇杷集散場.....	80
1 愛宕山.....	47	33 海岸(4).....	81
2 田上切通し.....	48	34 茂木郵便局.....	82
3 田上(1).....	49	35 十八銀行茂木支店.....	83
4 田上(2)梶原茶屋.....	50	36 茂木の町並み(2)寺下.....	84
5 田上(3).....	51	37 茂木の町並み(3)玉台寺墓地.....	85
6 田上(4).....	52	38 玉台寺山門.....	86
7 唐八景準堤観音のはた揚.....	53	39 茂木長崎ホテル.....	87
8 旧県道(1).....	54	40 新田から見た茂木港.....	88
9 旧県道(2).....	55	41 潮見崎(1).....	89
10 旧県道(3).....	56	42 潮見崎(2).....	90
11 旧県道(4).....	57	43 潮見崎観音寺.....	91
12 旧県道(5).....	58	44 立岩.....	92
13 水車小屋.....	59	45 旧茂木街道(1).....	94
14 旧県道(6).....	60	46 旧茂木街道(2).....	95
15 旧県道(7)竹林.....	61	47 旧茂木街道(3).....	96
16 旧県道(8).....	62	48 柳山橋.....	97
17 旧県道(9)小学校付近.....	63	49 茂木中学校.....	98
18 若菜川(1)小学校付近.....	64	50 東高等学校茂木分校.....	100
19 茂木小学校.....	65	51 早坂小学校.....	101
20 茂木の町並み(1)円成寺裏手.....	66	52 甌岩.....	102
21 旧茂木町役場.....	67	53 日吉小中学校.....	103
22 若菜川(2).....	68	54 大宮小学校.....	104
23 若菜橋.....	69	55 南小中学校.....	105
24 若菜川河口.....	71	56 千々.....	106
25 庄屋.....	72	57 千藤小学校.....	107
26 茂木ホテル.....	74		
27 ビーチホテル.....	75		
28 海岸(1).....	76		
29 海岸(2).....	77		
30 栈橋.....	78		



1 愛宕山



明治後半(1895年頃) 長崎大学附属図書館所蔵

明治時代の茂木は居留外国人の保養地として、また、雲仙や熊本方面への港として賑わった。そのために茂木街道は、明治 18(1885)年、人力車や荷馬車が通行できる近代的な道路に改修された。正面の山は、標高 230mの愛宕山で、長崎の町に近く、段々畑の様子がわかる。



市街地の拡大とともに愛宕山の周辺の畑が宅地化している。

明治 28(1895)年当時の長崎市の面積・人口は、7.00 k m²・71,485 人で、その後、明治期に下長崎村・戸町村・淵村、大正期に上長崎村・浦上山里村、昭和期に小櫛村・土井首村・小ヶ倉村・西浦上村・深堀村・福田村・日見村・茂木町・式見村・東長崎町・三重村、平成に入って香焼町・伊王島町・高島町・野母崎町・三和町・外海町・琴海町と合併とともに市域が拡大し、平成 22 年 10 月 1 日現在の面積・人口は、406.43 k m²・441,749 人となっている。

2 田上切通し



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

江戸時代に、長崎から茂木に到る街道があったが、明治時代になり、人力車や荷車が通行する近代的な道路を開削する必要があった。そこで、長崎県は明治 18(1885)年から茂木新道の開削に着手した。特に、田上の切り通しの開削工事が困難であった。明治 20(1887)年 6 月 25 日、午後 1 時より、当時の茂木村田上名において開通式が行われた。田上峠は長崎から茂木に到る中継点に当たる。



左の写真の前方の切り通し

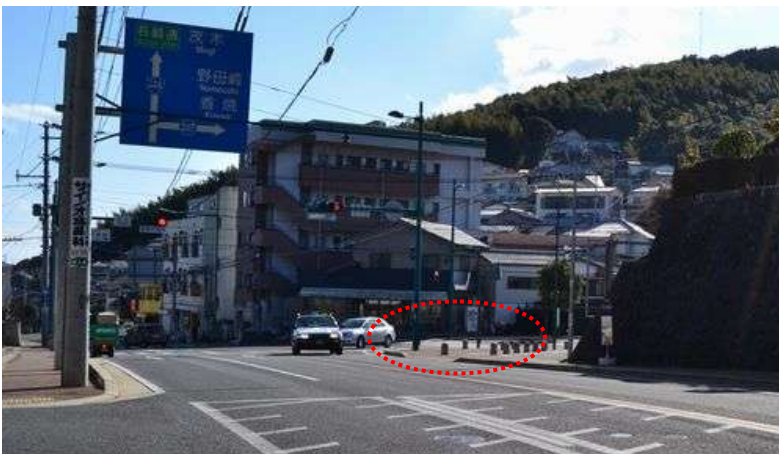
3 田上（1）



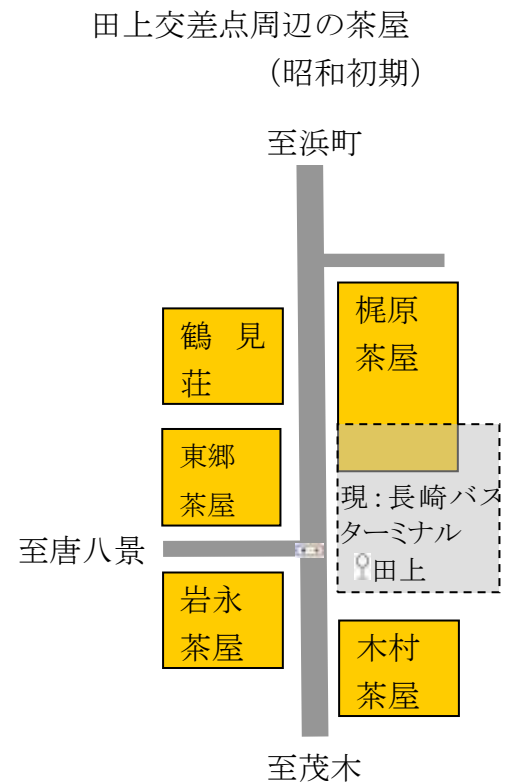
撮影者：ファサーリ 明治中期 長崎大学附属図書館所蔵

この写真のタイトルは「長崎からの茂木街道」となっている。撮影時期は彩色写真から見て、明治20年代である。建物は、古老によると田上の東郷茶屋と思われる。

田上は、当時長崎へ通じる6つの街道の一つで、鹿児島、天草、小浜等から長崎へ入る街道の中間の峠にあり大いに賑わった。



現在は、道路の拡幅が行われている。上の写真の建物は、点線付近にあった。



4 田上(2) 梶原茶屋



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

写真の藤棚は、梶原茶屋建物に向かって右手の現在のバス駐車場の入口部分にかかっていた。田上は長崎県庁から一里、当時人家20~30戸、茶屋10戸ほどで蕎麦と筍が名物。旅人の休息所であり、茂木に向かう旅行者はここで旅装を整えた。田上寺、観音寺、千歳亭など旧跡も存在する。



昭和20年代中頃



年代未詳 梶原茶屋2階での宴会
写真右端の人物は、森田丈市旧茂木町町長



梶原茶屋の場所は、田上の交差点のそばの民家と道路の一部になっている。

5 田上(3)



撮影者：上野彦馬 明治中期 長崎大学附属図書館所蔵

長崎から茂木へ行く途中の峠。長崎から茂木への要路で田上峠は茂木口といわれていた。
茂木村は長崎市の東南約8キロメートルの場所にあり、江戸時代から明治までは島原・天草・肥後・薩摩への要路として重要な港であった。また、居留外国人の保養地として知られていた。



田上の交差点から茂木方向へ少し入った付近と思われる。

6 田上 (4)



撮影者：小川一真 明治中期 長崎大学附属図書館所蔵

陸上交通が発達していない江戸初期、茂木は島原領であったが、寛永18年(1641)年に天草が天領となり、寛文8年(1668)年に茂木も天領となると、天草の富岡とを結ぶ茂木の港の役割は一層重要なものとなった。

長崎から茂木へ行くには、長崎半島の付け根の尾根を越える必要がある。この尾根の峠にある場所が田上であり、途中の休息をとるために茶屋ができた。この写真は、明治10(1877)年代の田上の茶屋を撮影した写真である。



7 唐八景 準堤観音のはた揚



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

唐八景は、田上から弥生道路（昭和 8 年東伏見宮妃殿下が命名）を登ったところにある。4 月 28 日・29 日の準堤観音の祭に「ハタ揚げ」が行われ、大正時代までは、この祭のときは芝居やノゾキなども来て大変な賑わいを見せていた。現在も、4 月頃新聞社などの主催でハタ揚げ大会が行われている。



公園として整備された唐八景



唐八景のバス停の横にある準堤観音



準堤観音から唐八景山頂への歩道

8 旧県道（1）



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

茂木から転石を登った旧県道の田上の手前。写真奥のカーブは、明治18(1885)年に開通した旧県道と昭和9年に開通する新県道の分かれ道にあたる。



9 旧県道(2)



撮影者：ヘンリー・スチュアート 1890年 長崎大学附属図書館所蔵

英海軍の見習い将校。ヘンリー・スチュアートが明治23(1890)年に茂木に旅行したときに撮影した写真である。

転石から茂木方向を撮影したもので、明治18(1885)年に出来た旧県道は、ここから山間の谷間へ降りて茂木へ続いている。



現在の転石は、住宅が建ち、上の写真の角度では撮影できなくなっている。
正面の下の橋は、左方向に行くと高速へ続いている。
上の橋は右側が唐八景トンネルの入口付近である。

10 旧県道(3)



撮影者：玉村康三郎 年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

旧県道の転石で、写真右下方向へ道をおり平口橋を渡り、右側中央の道に続き茂木へと続いている。



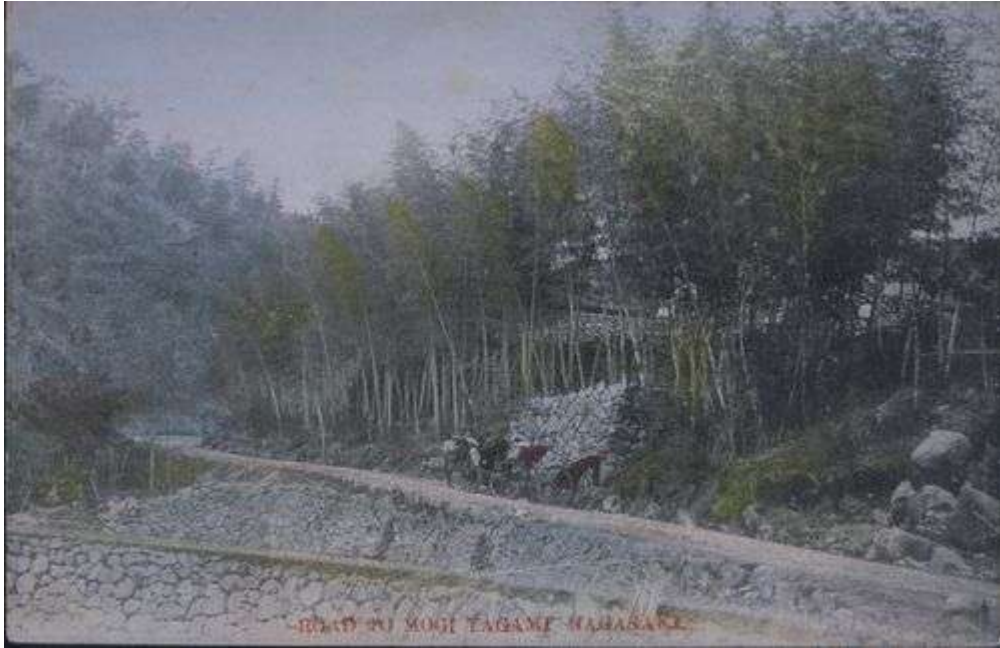
明治中期 長崎大学附属図書館所蔵



当時の写真には畑が多く見えるが、現在は、枇杷やみかんなどの果樹園や山林になっているところが多くなっている。

昭和9年に新県道（現在は国道）が開通し、この道路は交通量が減少している。

11 旧県道(4)



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

大正初期の茂木街道転石の絵葉書写真。田上から降りてきて、平口橋付近から撮影したものである。



手前の橋は平口橋、写真右側の橋脚は高速道路から唐八景トンネルへ続く道路の橋脚である。
平口橋の名称の由来は、この付近に「ひらくち」(マムシ)が多かったことから平口橋となったということである。

12 旧県道(5)



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

転石から坂道を降りて平口橋を渡たり、茂木方向に少し行ったところから転石方向を写している。



旧県道は、明治 18(1885)年に開通し長崎・茂木間の幹線道路であったが、昭和 9 年に新県道が開通し、交通量も減少し、この付近から茂木の黒橋間は当時の面影が残っているところも少くない。

左の写真は、上の写真から約 500m 茂木方向にある石橋。アスファルト舗装のためわかりにくいですが、下を見ると石橋であることがわかる。

13 水車小屋



撮影者：小川一真 明治中期 長崎大学附属図書館所蔵



明治末年 長崎大学附属図書館所蔵

^{こうびら}
河平のバス停から旧県道へ降りた付近にあった水車小屋で、左右の写真は撮影時期が異なるが、同じ水車小屋である。



若菜川の上流にあたるこの川は、従前は上の写真のような小川であったが、昭和 57 年 7 月 23 日の長崎大水害の際の氾濫で水車小屋周辺は流された。その後、河川の改修工事によって、川幅を広くし、川岸も高くなり、当時の小川の面影は感じられない。

丸く囲んだ場所あたりに上の写真の水車小屋があった。

水車小屋周辺の田畑は、枇杷やももの果樹園となっている。

14 旧県道（6）



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

大正初期の絵葉書写真。旧県道の河平で、左の建物は、山口饅頭店があった。山口饅頭店の開店時期と閉店時期は不明だが、戦前まではあったという。



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

大正初期の竹林と馬車による竹の切り出し風景を撮影した絵葉書写真。

上段の写真の右側の竹柵が左の竹柵に続いている。上段の写真の逆方向の写真である。



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

大正中期の竹林と蝙蝠傘をさす少女たちが歩く姿を絵葉書写真にしている。

左の写真を少し前に進んだ位置から撮影した写真となっている。



上段の写真の饅頭店があった場所は、造成されて地形が変わっている。（上段の写真の方向）



左の写真の逆方向。（中段の写真の方向）

15 旧県道(7)竹林



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵



旧県道の河平で、このあたりは斜面地で、当時とあまり変わっていない。

16 旧県道（8）



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

明治 18(1885)年に新道(旧県道)として整備された道路。

江戸時代からの茂木街道は、若菜川に沿い片町の東長崎商工会茂木支所のそばから東北に登り、辻を通り柳山・転石・田上・小島を経て長崎に通じる石畳の旧道があり、荷物の運搬は、指（さじ）という番所に登録して許可を受けた運搬夫が担いだり、牛馬の背で運搬していた。

明治 18(1885)年に茂木村海岸淵頭から若菜川に沿って片町・大川橋・転石・田上を経て長崎に通じる旧県道が整備されて、荷馬車や人力車が利用できるようになった。



この旧県道は、昭和 9 年に新県道（現国道）ができたため、交通量が少なくなっている。

17 旧県道（9） 茂木小学校付近



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

長崎市から東の田上の峠を越えた橋湾に面する茂木町の旧小字の片町にあたる付近の絵葉書写真。茂木は外国人の保養地として人気があり、明治 18(1885)年には旧県道が開通し、明治 39(1906)年にはビーチホテルである茂木ホテルも開業し、観光客相手の絵葉書が多く残されている。



左側のコンクリートの建物は、茂木小学校の校舎。川は若菜川で、道路と川に架かっている橋は、川の反対側にある小学校のグラウンドへ行く歩道橋である。

明治 7(1874)年に南川の個人宅を借りて創立された茂木小学校は、その場所を個人宅や庄屋跡など何度も移転し、明治 28(1895)年に現在地に校舎を建設した。

18 若菜川(1) 小学校付近



上記3点 年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

若菜川は、源を田手原・重籠、さらに田上の分水嶺から東に流れる支流を合わせて橘湾に注いでいる。

総延長 15,665m。

支流には、川平川、ナベリハエ川、桑原川、田賀野川、田原川、竹野川、仏田川、河内川などがある。



中央部の白い鉄筋コンクリートの建物は、市立茂木小学校で、橋は校舎とグラウンドの連絡橋。

19 茂木小学校



昭和 27 年



年代未詳



年代未詳



明治 7 年	7 月 8 日 南川森永喜代太氏宅を借りて公立小学校を創立 第五大学区第二大区第一中学区茂木小学校と称す
明治 8 年	1 月 片町の旧庄屋に移す
明治 9 年	夏 借家の期限満了のため、教員宅で分散授業
明治 13 年	9 月 校舎を本町の前田勘四郎宅に移転
明治 14 年	1 月 公立初等茂木小学校と改称、各名に分舎を設置
明治 16 年	11 月 中等茂木小学校と改称
明治 18 年	校舎を再び旧庄屋に移す
明治 19 年	6 月 尋常茂木小学校と改称
	校舎を片町に移す（浦川伝吉宅）
明治 21 年	校舎を新田に移す
明治 25 年	4 月 茂木尋常小学校と改称
明治 28 年	4 月 3 日 現在地に新校舎を建て、開校式を行う
明治 29 年	6 月 10 日 茂木尋常高等小学校と改称
昭和 16 年	4 月 1 日 茂木国民学校と改称
昭和 22 年	4 月 1 日 茂木町立茂木小学校と改称
昭和 27 年	7 月 宮摺分校開校（1・2 年生）
昭和 37 年	8 月 宮摺分校廃止

明治 14 年 1 月～6 月までの予算書によると

教員月給 9 円－1 名、8 円－1 名、6 円－1 名、4 円－1 名 計 27 円

小使月給 4 円、消耗品 3 円、宿料 5 円

合計 39 円（分校を除く）

20 茂木の町並み(1) 円成寺裏手



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

茂木の若菜川を円成寺裏手から望む。若菜川は干潮のため水量は少ない。右は、若菜橋付近の拡大である。若菜橋の側に仮設の橋と思われるものがあり、若菜橋の中央橋脚の右側には橋がないことから、若菜橋の架け替え工事中に撮影されたものと思われる。

屋根は瓦葺きが多いが、手前には何軒かの藁葺き屋根も見える。



(若菜橋付近の拡大)



片町の円成寺裏手から茂木港方向を写した写真で、上の写真では北浦の海岸が見えるが、現在は木が生い茂り、陰になっている。

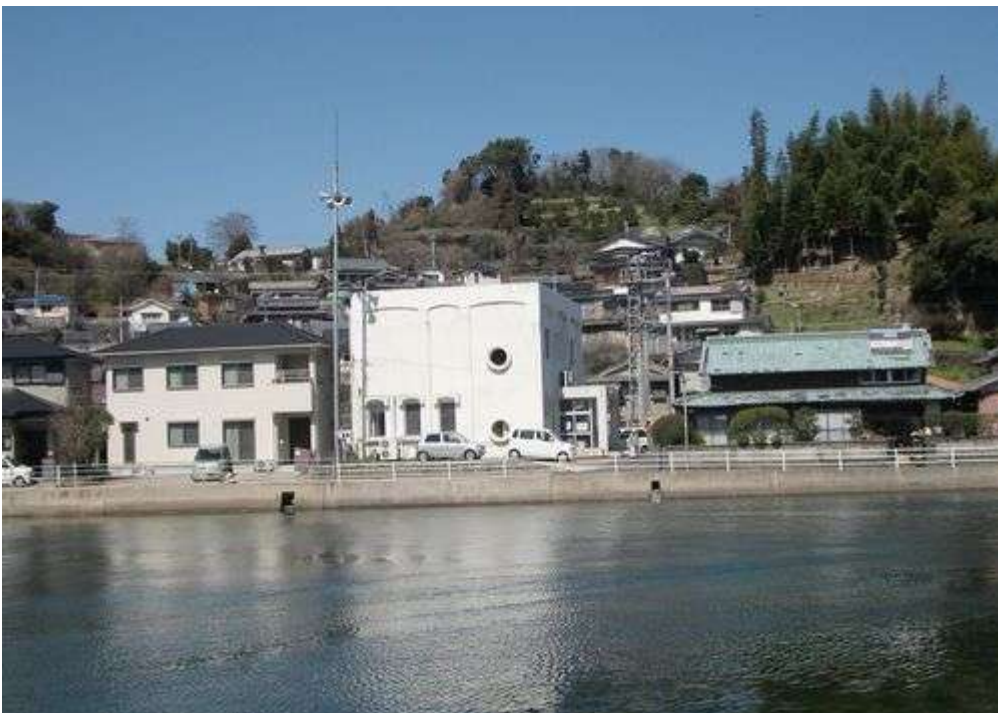
写真の下部に円成寺の本堂の屋根が写っている。感応山円成寺という日蓮宗の寺院で、明治14(1881)年に柴田俊道が開山した。

21 旧茂木町役場



年代未詳 旧茂木町役場

片町の若菜川の側にあった旧茂木町役場。長崎市に編入合併後も支所として昭和 56 年 3 月まで使われていた。



昭和 56 年 3 月に支所が埋立地に新築移転した後、昭和 58 年 4 月に茂木商工会館として新築オープンした。

なお、茂木商工会は、合併により平成 19 年 4 月から東長崎商工会茂木支所となった。

22 若菜川 (2)



撮影者：宮本忠彦 年代不詳

若菜橋から若菜川上流の片町を撮ったもので、写真中央の大きな建物は旧茂木町役場、その奥に裳着神社、円成寺が見える。



中央の白い建物は、市役所茂木支所が移転した後、昭和 58 年に新築した茂木商工会館。平成 19 年に合併により、東長崎商工会茂木支所となった。

23 若菜橋



撮影者：マンスフェルト
明治初期 1869-70
画像提供：長崎大学附属図書館

架橋時期は不明であるが、明治中期に架け替えられる前の若菜橋。

当時は、土橋だった。

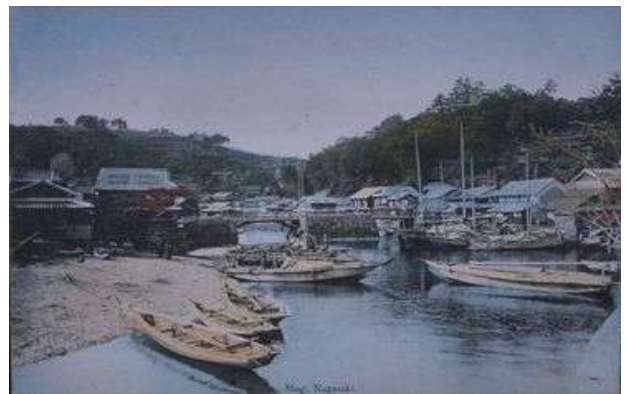


年代未詳
長崎大学附属図書館所蔵

明治中期に架け替えられた欧米の技術によるアーチ形式の木製の橋。

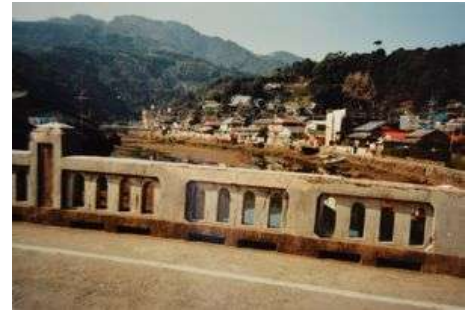
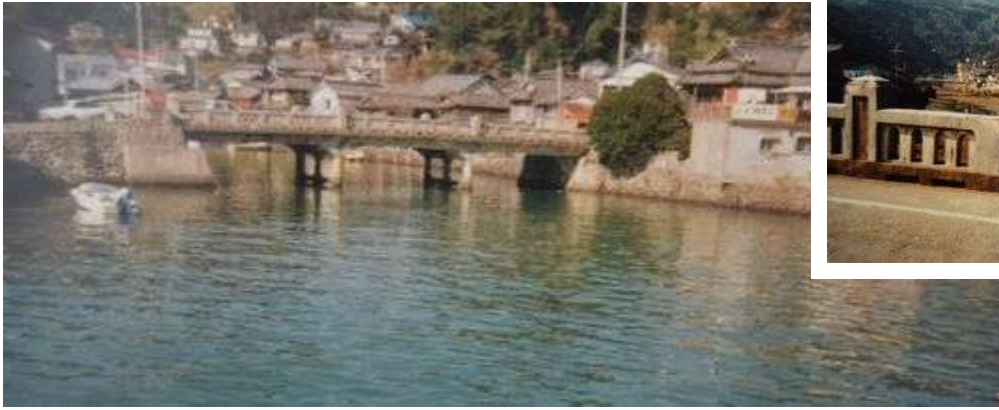


撮影者：小川一真 明治中期 長崎大学附属図書館所蔵



年代未詳 長崎大学附属図書館所蔵

中央の船は当時小回し(近距離)用の荷船であり、「イサバ船」と呼ばれた。



撮影者：前田歳子 昭和 58 年頃

大正 11(1922)年に架け替えられた若菜橋。このとき、途中の橋脚がコンクリートに変わり、橋口（南）側の位置が東（河口方向）に移動している。



昭和 61 年に架け替えられた現在の若菜橋。2 本の橋脚が撤去されている。

24 若菜川河口



明治中期 長崎大学附属図書館所蔵

茂木本郷の若菜川河口の海岸。茂木は外国人の保養地として人気があったが、明治 18(1885)年には旧県道が開通し、明治 39(1906)年には茂木ホテルが開業し、観光客が多く訪れた。写真は鄙びた漁村の雰囲気을伝えている。



中央の橋は弁天橋で、最初は昭和 10 年に架けられた。現在の橋は、平成 4 年に架けられたものである。

25 庄屋



撮影者：マンスフェルト 明治初期 1869-70 画像提供：長崎大学附属図書館

写真は、茂木ホテルになる前の庄屋宅。明治の一時期は、茂木小学校としても使用されていた。ホテルの時代は食堂として使用されていた。

庄屋になる前、この場所には、初代長崎代官村山等安の別邸があった。

等安は、文禄元(1592)年、文禄の役の際に、長崎惣代として名護屋に在陣していた豊臣秀吉に謁見し、直轄地を預かる長崎代官に任命された。

また、彼は熱心なキリシタンで、洗礼名はアントニオ。三男のフランシスコ村上是宣教師であった。

しかし、元和 4(1618)年貿易商の末次平蔵が、大阪夏の陣で、大阪方に通じたなどと訴え、元和 5(1619)年 10 月 26 日に江戸で斬首、一族も長崎で処刑された。等安の死後、長崎代官は末次平蔵が継いだ。



島原海岸の茂木の村長の家 リンデン伯「日本の思い出」より
長崎市歴史文化博物館所蔵

リンデン伯は、オランダ国王の侍従長で、安政 2(1855)年に国王から長崎に派遣され、出島に 4 ヶ月滞在した。この絵は、1860 年に絵 20 枚、説明文 15 枚が出版されたものの中の 1 点である。



撮影者：マンスフェルト 明治初期 1869-70 画像提供：長崎大学附属図書館

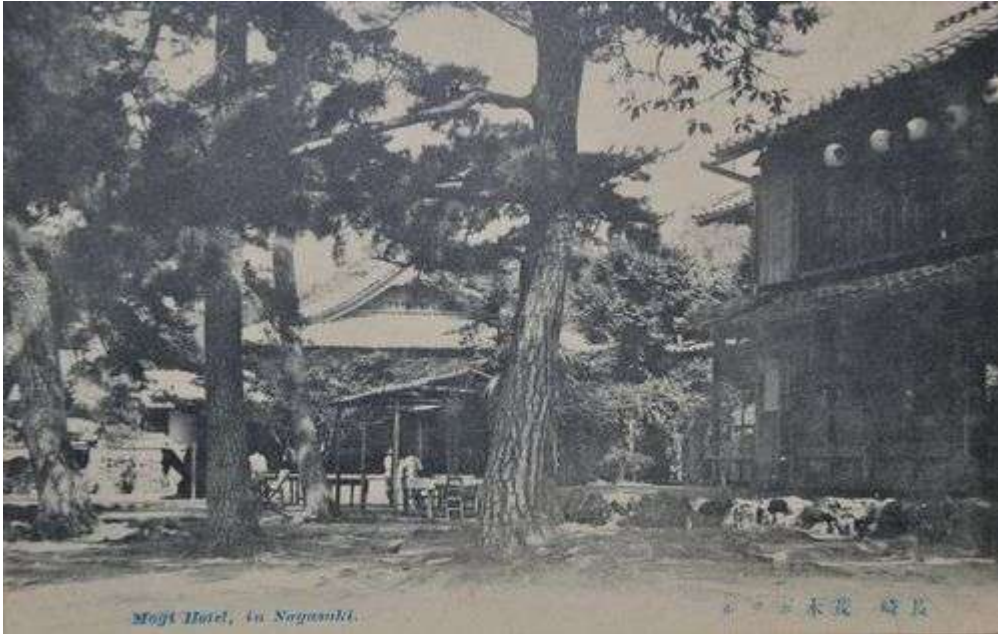
庄屋屋敷となる前、ここに長崎代官の村山等安の別荘があり、壕に囲まれまるで城郭のようであったといわれている。海岸沿いにある石の塀、背後の山の稜線、山のふもととの間に障害物が無く、写真右下に建物が写っていることなどから、庄屋屋敷内から新田方向を写したものと思われる。

石の塀は、茂木郵便局ができるときに取り壊されている。



大正 12(1923)年からの埋立により、当時の砂浜が埋立てられ、背後の山も当時に比べると木が繁っている。

26 茂木ホテル



年代未詳 長崎市歴史文化博物館所蔵 絵葉書写真

茂木ホテルは、明治 39(1906)年庄屋敷跡に純洋館建ての建物を建て、道永えいが開業したものである。昭和 2 年に経営が砂田ツイに引き継がれビーチホテルとして開業された。その後、大長崎建設の建和寮を経て、昭和 56 年に解体された。茂木ホテルは、S マート茂木店から茂木郵便局にかかる場所にあった。

ホテルがあった岬は、茂木村本郷の南端に突出する岬で、天草、島原などを眼前に望み風景雄大である。この先に、当時の茂木港栈橋があった。



大正初期 長崎大学附属図書館所蔵 絵葉書写真
写真の看板に茂木ホテルとある。



上の図は大正 12(1923)年からの埋立て工事の平面図で、茂木ホテルの建物の場所が記載されている。

右上に明治 34(1901)年に築造された、栈橋用突堤がある。

左の写真の郵便局の前付近の道路が盛り上がっているのは、平成 4 年に現在の弁天橋を架け替える際に、この部分に盛り土をして仮橋を架けていた名残りである。



27 ビーチホテル



撮影者：宮本忠彦 年代未詳

旧庄屋跡に、道永えいが茂木ホテルを開業し、昭和2年に砂田ツイに経営が引き継がれ、ビーチホテルとして開業された。

その後、大長崎建設の建和寮を経て、昭和56年に解体された。



撮影者：宮本忠彦 年代未詳



昭和30年頃のビーチホテルの玄関



撮影者：宮本忠彦 年代未詳



撮影者：前田歳子 昭和末期頃